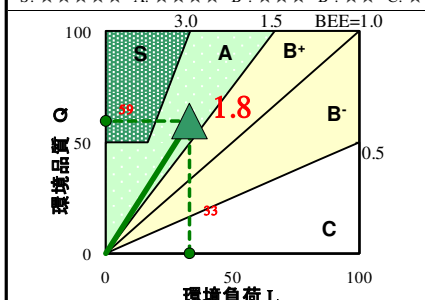


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	泉大津市立上條小学校	階数	地上3F
建設地	大阪府泉大津市東助松町	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	541 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年1月 予定	評価の実施日	2024年11月1日
敷地面積	13,568 m ²	作成者	森貞剛志
建築面積	2,358 m ²	確認日	2024年11月2日
延床面積	6,084 m ²	確認者	稲田直子

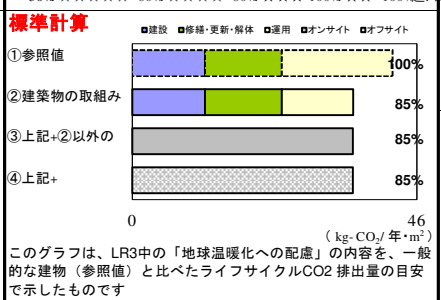


2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

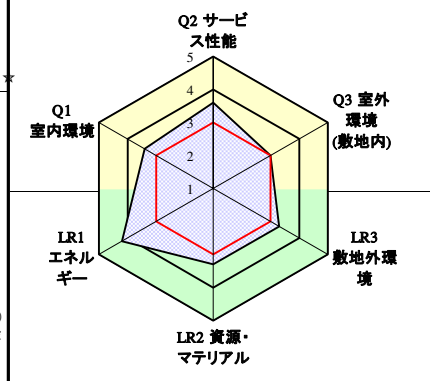
BEE = 1.8 ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

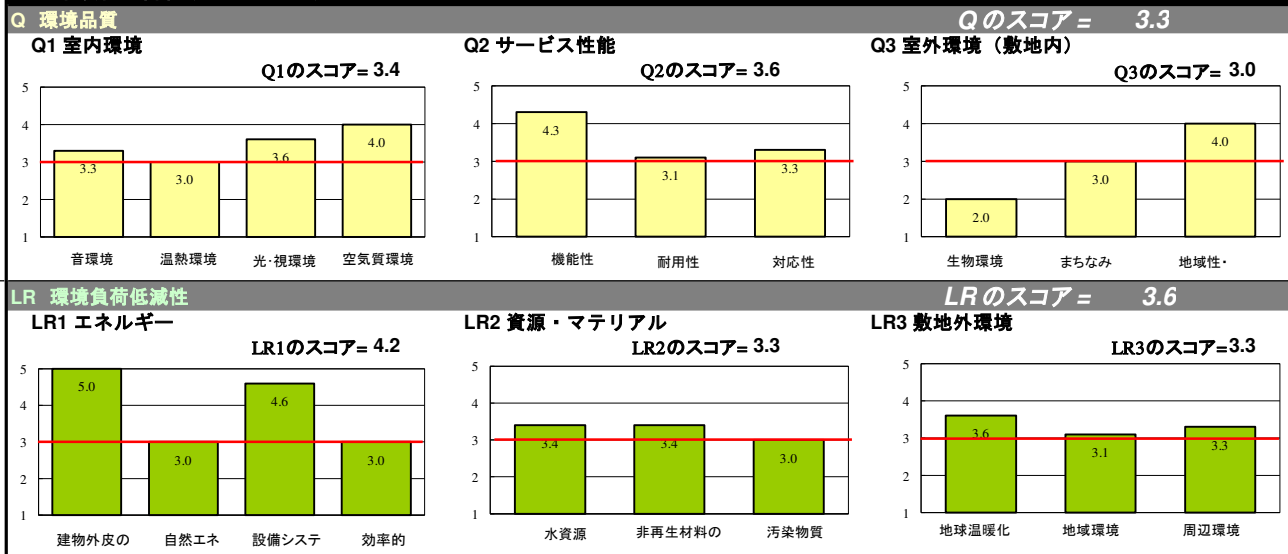
☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
児童の生活の場、地域交流の場、防災拠点としての機能性、耐久性、安全性を備えた学校施設となるよう計画した。特に、児童が多様な活動ができる機能的な空間づくり、防犯環境等に配慮し、児童が安心安全に学べるよう、これらを視覚的に分かりやすく計画した。地域の人々が親しみやすく、地域のシンボルとなるようなデザインとした。		
Q1 室内環境 教室間の騒音対策として、間仕切りは遮音性能を持たせ、天井は吸音効果のある材料を選定している。省エネルギー対策として外壁断熱、庇を設置している。	Q2 サービス性能 水廻りの仕上げ材は防汚性のある壁、床材を選定している。建築基準法の1.25倍の耐震性を持たせている。乾式間仕切りを採用し、将来改変に対応し易くなっている。	Q3 室外環境(敷地内) 中庭、読書テラス、芝生のグラウンド、サブグラウンド等の多様な外部空間を計画している。敷地境界沿いに植栽帯を設け、景観に配慮している。
LR1 エネルギー 居室外壁面の断熱、空調、換気設備は全熱交換器、環境配慮型器具の高機能のものを選定、応による空調負荷の軽減等、省エネルギー対策に取り組んでいる。	LR2 資源・マテリアル 衛生器具省エネルギーシステム(節水型便器、自動水栓等)を取り入れている。リサイクル可能な部材を使用している。	LR3 敷地外環境 グラウンドに、蒸発冷却作用の高い芝生を採用し、温暖環境負荷の軽減に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		泉大津市立上條小学校						
建設地		大阪府泉大津市東助松町						
用途／区分		学校(小中高)						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	断熱性能						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外	
④	エネルギー消費性能						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					4	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.6	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	4.6	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		